



だより

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1-2
Tel : 0564-51-1601 Fax : 0564-51-4831
E-mail noudai@pref.aichi.lg.jp
ホームページ : <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/>

酪農専攻



CONTENTS

- 1 専攻紹介 (酪農専攻)
- 2 農大祭の開催
- 3 卒論発表会の開催
- 4 各専攻トピックス
- 5 トピックス
 - 一般一次入学試験の結果
 - 第3回進路セミナーの開催
 - 終業式の実施
 - 生産高度化研修 (いちじく) の開催
 - トラクター作業研修の開催
 - 県民公開講座 (家庭果樹) の開催

愛知県立農業大学校
公式HP



SNS

Instagram 



Twitter 



専攻紹介

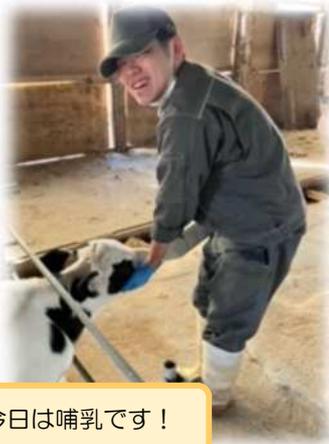
酪農専攻

酪農専攻では、搾乳牛 21 頭、育成牛 23 頭、肥育牛 11 頭、和牛 7 頭を飼養しています。学生 1、2 年合わせて 21 名で日々搾乳や育成管理などの作業を行っています。

毎日作業を行う必要があるため大変な一面もありますが、その分実践的な技術を楽しく身につけることができます。



酪農専攻のお仕事



今日は搾乳です！

お掃除♪お掃除♪



搾乳は 1 日 2 回
個性豊かな牛たちです



うまい！
うまい！



毎日分担が決まっています
今日はどこかな…



餌寄せ



夜作業は 18:00 から。
当番生が担当です



トラクターけん引運転



TMR を給餌してきます！

酪農専攻ならではのイベント

牛の管理作業だけでなく、年間を通して、酪農専攻ならではのイベントも多数あります。今年あったイベントをいくつか紹介します。



削蹄



共進会



出荷

良い
お肉になあれ



がんばれえ

これで俺も
人工授精師だぜ



AI講習会



チーズ
のびーる

加工演習



ソーセージ作り
コツがいるんですよ



楽しそうね..

特集

「農大祭2022」を開催！



12月3日（土）午前9時から午後1時まで、「やりたいことを全力で ～笑顔満天農大祭～」をテーマに「農大祭2022」を開催しました。

新型コロナウイルスの流行で、昨年、一年と規模を縮小して開催してまいりましたが、今年は食品バザー等の飲食を伴う催事も含めてコロナ禍前の形で、従来通り実施することとなりました。

また、今年は各専攻のPRや学生の研究発表の成果をパネル展示する専攻展示室を新たに設置しました。

当日は、天候に恵まれ、岡崎のアメダス（本校内に設置）の正午の気温が11.8℃、風もなく穏やかな日となりました。午前8時30分の受付開始とともに、お目当てのブースや整理券を求めて来場される方がたくさんお見えになり、9時の販売開始時には多くのブースで長い行列をつくっていました。最終的な来場者数は、昨年の1400名を大きく上回る約2000名の方々にご来場いただきました。

農大祭のテーマのとおり、学生は「やりたいことを全力で」やり切り、来場者の皆さんの笑顔があふれる農大祭となりました。ご来場いただいた皆さま、ご協力いただいた関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



農大祭2022
オープンします!



開場と同時に整理券を求めて長い行列ができました

体育館は花でいっぱい!



ソーシャルディスタンスの
協力をお願いします



各専攻の直売ブース、協賛団体等
ブースは来場者で大盛況でした



みたらし団子



各専攻の食品バザーも大盛況！
学生は大忙しでした

チーズたません



サツマイモスティック



3年ぶりの農大茶席、本格的な
茶道を体験していただきました！



軽音学部によるライブ



各専攻等の紹介パネルを
展示(2階研修室)



農大キャンパスツアーでは、普段は見るこ
とができない実習ほ場等を見学。農業や
農大への理解を深めていただきました。



特集

令和四年度卒業論文発表会



わたしたちのプロジェクト

令和4年度卒業論文発表会

令和4年度農学科卒業論文発表会が12月13日（火）に大講義室で開催されました。

農学科では、2年生全員が1人1課題以上のプロジェクト活動に取り組み、学生自らが実習等に取り組む中で感じた疑問点や改善点を課題として、様々な試験を行い、その結果を卒業論文としてまとめられています。卒業論文発表会はその成果を、各専攻で選ばれた2年生9名が、10分間の持ち時間で発表します。

当日は、県内農業系高校の先生方もお招きし、運営は学生会1年生が行いました。

発表者は、緊張の中、いずれも専攻の代表であるという自覚と責任感を持って、素晴らしい発表を行いました。また、会場では校長等審査委員の他、学生からも活発な質問が行われ、発表者は的確に質問に答えていました。

審査の結果、最優秀賞1名と優秀賞2名が選出されました。最優秀賞の作物専攻の門脇幹さんは1月に開催される東海・近畿ブロック農業大学校研究及び意見発表会に本校代表として参加します。



少し緊張気味の中、素晴らしい発表をした発表者のみなさん



審査委員や会場の学生から活発な質問



表彰



学生会（1年生）が運営

	発表者(専攻)	発表課題
各専攻の発表者	加藤 慈喜 (果樹)	ブドウ品種「巨峰」のミストを用いた果実品質の向上
	屋宜 虎我 (酪農)	乳房の毛刈りによる乳房衛生スコアの改善と乳房炎予防効果の検討
	水谷 風都 (養豚・養鶏)	ロイコトゾーン症による被害の抑制
	水谷 音稀 (養豚・養鶏)	哺乳子豚への中鎖脂肪酸トリグリセリド投与が成長に及ぼす影響
	深津 千捺 (切花)	ヒマワリの摘葉処理が切花品質に及ぼす影響
	大門 昂大 (施設野菜)	ICT温室における大玉トマト40tどりを目指した栽培方法の確立
	門脇 幹 (作物)	稲WCSの品種毎での最適な栽培方法の検討
	伊藤 空也 (露地野菜)	耕耘深度によるダイコンの収量の違い
	永坂 博登 (鉢物・緑花木)	培土が多肉植物の生育に与える影響

審査講評

審査委員長 校長 鷹羽 靖夫

各専攻代表の発表は、技術の実効性や妥当性などの実証、結果の取りまとめ、考察も全般的に良くできていました。

最優秀賞の門脇さん（作物専攻）は、地域の問題をしっかりと聞き取りし、先輩方が行ってきた結果を結び付けながら地域に普及できる技術を出した点が評価されました。優秀賞の大門さん（施設野菜専攻）は思ったような結果が出ない試験もあったが、それを的確に分析した点、水谷さん（養鶏専攻）はニワトリヌカカの発生生態の解明や対策などの3つの試験を行い、深く研究した点が評価されました。他の発表もそれぞれに特徴があり、専攻代表として入賞した発表と比較して甲乙付けがたい内容でした。

本年度の卒業発表は専攻学習で得た技術的なテーマがほとんどでした。これら技術に関する効果や効率などの評価は重要な問題解決であり、さらに農業現場での実用性や消費者評価などマーケティングの発想を加えて、今後1年生へと引き継がれていくことを期待しています。

卒業論文研究及び発表は、農大での実践学習の総仕上げです。2年生の皆さんは、卒論研究で得た「問題解決能力」と卒論をキッチリとやり終えたことで得た「自信」を武器にして、卒業後の仕事や勉学に活かしてください。

最優秀賞 門脇 幹 (作物専攻)

課題名 「稲WCSの品種毎での最適な栽培方法の検討」



日本の米需要量は減少傾向にあり、牛の輸入粗飼料は高騰を続けているため、稲WCSに着目した。試験の際は、豊橋稲WCS組合を訪問し、水稻農家から品種毎の適切な栽培体系を知りたい、酪農家から高品質な稲WCSを提供してほしいとの声が聞かれた。課題解決のため、稲WCS品種を様々な栽培体系で栽培し、品種毎の適切な栽培方法を検討した。また、稲WCSの適正水分率50~65%となる収穫時期を解明し、高品質稲WCS生産を目指す。

○ 実施方法

稲WCS品種「たちあやか(R1)」「ホシアオバ(R2)」「モミロマン(R3)」「つきあやか(R4)」を使用した。試験区は慣行区(12kgN/10a)、慣行追肥区(12+2kgN/10a)、増肥区(14kgN/10a)、増肥追肥区(14+2kgN/10a)、減肥区(9.6kgN/10a)、減肥追肥区(9.6+2kgN/10a)を設定し、適切な栽培体系と収穫適期を検討した。

○ 結果及び考察

茎葉型の「たちあやか」「つきあやか」では、基肥増肥よりも追肥での増収効果が高く、穂重型の「ホシアオバ」「モミロマン」は追肥よりも基肥増肥での増収効果が高かった。品種毎に見ると、出穂後積算温度807~871℃で稲WCSの適正水分となり、出穂後27~36日の範囲であった。また、収穫のタイミングは概ね出穂後1か月前後で、出穂後積算温度850℃前後を目安に実施するのが高品質稲WCS生産には好ましいと推測される。

★品種毎の草型及び乾物重量(kg/10a)

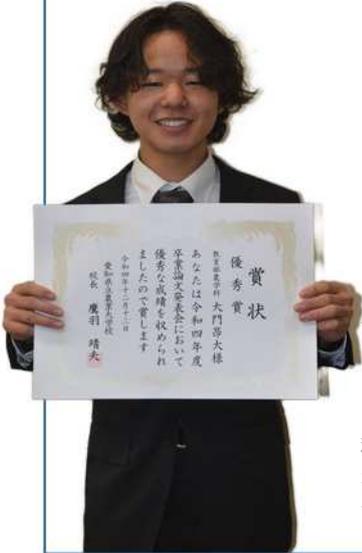
	草型	慣行区	慣行追肥区	増肥区	増肥追肥区	減肥区	減肥追肥区
たちあやか	茎葉型	1,315	1,435			1,352	1,435
ホシアオバ	穂重型	1,499	1,463	1,542		1,369	
モミロマン	穂重型	1,418	1,419	1,563	1,591		
つきあやか	茎葉型	1,494	1,673	1,568	1,685		



優秀賞 大門 昂大（施設野菜専攻）

課題名「ICT 温室における大玉トマト 40t どりを目指した栽培技術の確立」

本校では一昨年に ICT を導入した高軒高温室（以下 ICT 温室）が建設され、40t/10a を目指している。これまで品種比較や着果数の試験を行ってきたが、環境面の試験は行われておらず、本年度は日射比例灌水の検討を行った。本試験ではこれまでの試験で有望と思われた3品種の中から品種選抜を行うとともに、日射比例灌水により省力で適正な灌水量を明らかにし、40t どりを目指した環境制御技術を確立することを目指した。



○ 実施方法

- ① 大玉トマト「かれん」「麗旬」「麗妃」の生育、収量、果実品質を調査した。
- ② 2月～6月にかけて日射比例灌水を排水量、生育面から評価した。

○ 結果及び考察

① 品種試験

収量、可販果率などで「かれん」が優れた。

② 日射比例灌水土験

日射比例区の方が排水量が多くなり、生育面も慣行区の方が優れた。また日射比例区は日中の灌水回数も多く、一日のトマトの「みかけの吸水量」も少なかった。

以上の結果から、環境制御下の高軒高温室における最適品種が選定できた。また、日射比例灌水是生育ステージ毎の積算日射量あたりの灌水量の検討が必要なが分かった。来年度あぐりログの排水センサーを用いた評価を実施し、3年以内に40t/10aを目指す。

品種比較試験-考察-



優秀賞 水谷 風都（養鶏専攻）

課題名「ロイコチトゾーン症による被害の抑制」



本校鶏舎において夏季に頻発する産卵率低下と貧血症状を改善するため、ロイコチトゾーン症に着目し、本症の動態について調査した。

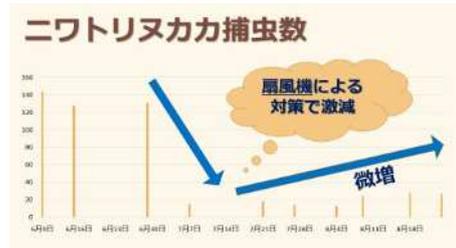
○ 実施方法

- ① アメダスのデータから本校付近の気温の変動について調査
- ② ニワトリヌカカを捕虫し鶏ヌカカの飛来数を調査
- ③ 抗体価を測定し抗体価の動きを調査

○ 結果及び考察

本校では平均気温が 25℃を超えるあたりでニワトリヌカカの捕虫数が増加した。それに伴い、本症の抗体価も上昇した。また、25℃になる前 6 月時点でも本症の抗体は存在した。一方で、扇風機の設置によりニワトリヌカカの捕虫数は減少した。

本実験結果から、本校における産卵率低下や貧血症状はロイコチトゾーン症が原因であると推測された。平均気温が 25℃になる時期にはニワトリヌカカが活発に活動し始めるため、毎年この時期には注意する必要がある。しかし、本校には原虫が常在している可能性があるため、これ以上被害を広げないためにも扇風機を用いるなどして対策していく必要がある。



専攻トピックス

最近の各専攻で話題になったことや実習風景などをお届けします！



2万本のタマネギの苗を定植する！

春に向けてタマネギの定植を行いました。9月、10月にまいた種は、昨年より雑草対策や、かん水など改善を加えたおかげで、すくすく育ち良い苗ができました。できた苗を掘り起こし早生、中生、晩生の順に日を変えて植え、約2万本の苗を定植しました。学生全員で協力し、合計5時間程度ですべての苗を定植することができました。収穫は来年の4月頃から始まる予定です。



驚くほどハウスが明るくなりました！

メロンやキュウリを栽培する温室では天井のガラスに長年溜まった汚れにより日射量が不足し、キュウリの芯止まりやメロンの交配不良が発生していました。明るいハウスでキュウリを栽培したいという学生の希望もあり、今年度、動力噴霧機を利用した清掃ブラシを購入。掃除には1週間ほどかかりましたが、ハウスは驚くほど明るくなりました。これで日射の少ない冬場もキュウリが順調に生育してくれるはず！



幼稚園を訪問し、劇を披露！

作物専攻では、栽培期間中に化学肥料及び化学合成農薬を使用しないお米の栽培方法について学んでいます。そして、今年初めて、そのお米を幼稚園の園児たちに食べてもらう取組を行いました。12月8日「有機農業の日」に合わせて岡崎市内の2つの幼稚園・保育園を訪問し、お米の作り方に関する劇や、農大の取組を説明しました。園児たちからたくさん質問が出て、学生たちは良い刺激を受けていました。

その後の給食では、学生たちが頑張った作ったお米をおいしく食べてもらいました。





あのハボタンたち、一難去ってまた一難

写真は8月号で取り上げたハボタンの露地ほ場の現在です。雑草に打ち勝ち、立派に育ってくれました。あとは年末の需要期に向けて収穫・出荷するのですが…、ハボタンは大きくて重いので収穫が大変。色々あって十分な人手が確保できておらず、収穫が計画どおりに進んでいません。このままでは需要期に間に合わず、出荷できないまま大量に余ってしまうかも？誰か助けてえ～。



農大祭で花きの直売は大好評！

今年も農大祭にて、体育館いっぱいの大規模なお花屋さんをオープンしました！今年は切花専攻と合同で、よりにぎやかに行いました。毎年、大好評をいただいております。500枚用意した整理券は早々に配布終了し、何百鉢も用意したシクラメンは完売となりました！足をお運びくださったお客様に感謝です！たくさんのご来店にも、学生たちは落ち着いて接客や会計をこなしており、毎週水曜日に行っている直売で身に着けた商品知識や度胸を発揮している姿が一段と頼もしく見えました。



ジャムのラベルをオシャレに！農大祭で大人気♪

果樹専攻では、農大祭の直売ブースで、シャインマスカットやカキ、西洋ナシ等の果物の販売の他、ジャムの販売も行いました。ジャムは、イチジク、マーマレード（ユズ入りとスダチ入りの2種類）、モモ、ブルーベリー、アズノの計6種類を販売しました。ジャムのラベルは学生がデザインし、協力してジャム瓶に貼りました。今年はイチジクジャムのラベルを改訂し、オシャレなものに仕上げました♪当日は大盛況で、ジャムはすぐに完売してしまいました。後日、購入したお客様から美味しかったとの感想を頂きました～♪





酪農

牛の採卵をしました

12月14日、畜産総合センターに依頼をして、農大の牛の採卵を行いました。採卵とは受精卵を計画的にたくさん取る手法で、今回は黒毛和種の「えりな」の採卵を行いました。実は、「えりな」のお父さんは、有名な「安福久」という牛で、この子どもたちにはとても期待をしています。今回首尾良く受精卵がとれましたが、この卵たちがうまく受胎するかは、受精卵を移植する今後の母牛達のコンディションにもよります。コンディションを整えるのは私たちの仕事です。みんなで頑張ります！



養豚

卒業論文発表会に向け、プレゼンテーションのリハーサルを実施

恒例の卒業論文発表会が12月13日（火）に実施されました。これに向けて、プロジェクト研究で得られた成果を分かりやすく発表するために、数回に渡り、養豚専攻・養鶏専攻合同でプレゼンテーションのリハーサルを行いました。発表会本番では残念ながら、賞を取ることはできませんでしたが、リハーサルを合同で行うことにより、活発な意見交換ができ、プレゼンテーション用の資料作成や発表方法等について、より深く学ぶことができました。



養鶏

農大祭、大盛況でした

12月に農大祭が盛大に行われました。感染症には最大限注意を払いながらも飲食スペースが復活し賑わいを見せました。養鶏専攻は養豚専攻と合同で行い、卵の販売はもちろん、プリン、パウンドケーキ、コーヒーを販売させていただきました。どの商品もおかげさまで大盛況であり、開始1時間でほとんどの商品は売り切れてしまいました。卵の増量は困難ですので、来年は飲食スペースの方を充実させていきたいと思えます。

2年生たちは去年と異なる運営ではありましたが、1年生をリードし円滑な運営を行ってくれました。1年生からも多々アイデアが出て来年度はさらに盛り上がるような気がしています。担当の私も初めての農大祭に戸惑いはありましたが、多くの専攻の先生や学生に助けられ、充実した1日を過ごすことができました。



※ 各専攻の様子は、農大のインスタグラム、ツイッターで情報発信しています。

トピックス

令和5年度入学生 一般一次試験の結果について

12月9日（金）、一般一次試験（小論文、数学Ⅰ、面接）を行いました。受付では多くの受験生の緊張する姿が窺えましたが、面接では農業に対する夢や希望を堂々と答えてくれました。合格発表は12月20日（火）に行い34名が合格、先に実施した推薦入試と合わせて合格者は92名となりました。

一般二次試験は令和5年2月13日（月）に行います。募集期間は令和5年1月10日（火）から1月25日（水）、募集する専攻は、「鉢物・緑花木専攻」、「切花専攻」、「酪農専攻」です。

※ 詳しくは、本校ホームページをご覧ください。

第3回進路セミナーを開催しました

12月15日（木）1年生を対象に第3回進路セミナーを開催しました。今回は雇用就農・就職を対象として2部構成で実施しました。

第1部では「私の就職活動の取組」と題して、雇用就農・就職予定の2年生6人から自らの取り組みや体験談を紹介してもらった後、1年生からの質問に答えてもらう形で進めました。2年生からは「就活は早めに始めるべき」、「インターンシップには積極的に参加するべき」など貴重なアドバイスがありました。

また、第2部は「農業法人が求める新入社員の資質と能力」と題して、本校の卒業生で、弥富市を中心に水田作・米加工品等の生産・販売を展開している（有）鍋八農産の代表取締役、八木輝治さんから御講演をいただきました。八木さんからは、「現場で働く従業員からの提案で気付きを与えられ、職場の改善に繋がっている」等、改善の取組についての紹介や、「取れる資格はできるだけ取っておくべき」等のアドバイスがありました。

1部、2部を通して、受講した1年生にとって大変有意義なセミナーとなりました。



2年生（6人）から就活の体験談



講演：鍋八農産の八木輝治さん

終業式を行いました

12月16日（金）に終業式を行いました。

鷹羽校長から、2学期を振り返り、1年生の農家派遣実習、収穫感謝祭や農大祭の開催、意見発表会や卒論発表会など、大きな行事を円滑に実施できたことは、学生の企画力や行動力の賜物であると感謝の言葉が述べられるとともに、年末年始は英気を養い、2年生は全員卒業できるように単位取得と卒論作成に努め、1年生はそれぞれの進路実現に向けて、準備を進めてほしいとの講話がありました。新年は1月10日から学校が始まります、2年生の学生生活は残り2か月になります。



校長講話

イチジクの高品質安定生産について学ぶ

11月22日（火）、「県育成のイチジク新系統のブランド化方策」をテーマに、愛知県果樹振興会イチジク部会と農業大学校の共催による生産高度化研修（果樹：イチジク）を開催し、イチジク農家及び関係機関64名の参加がありました。

研修は、農業総合試験場園芸研究部落葉果樹研究室の今川主任研究員から「イチジク新系統の特性について」、農業総合試験場研究戦略部技術開発研究室の近藤主任研究員から「イチジク新系統のブランド化方策」についての講演がありました。

総合討議では収量性や糖度についての特性や、ブランド化方策についての県の方針など熱心な質疑が展開され、研修会後のアンケートにおいても「今後のイチジク生産の方向を考える機会となった」、「ブランド化の必要性を強く感じた」等の意見が聞かれるなど有意義な研修会となりました。



トラクター作業研修を開催しました

11月24日（木）、25日（金）に農業者等12名を対象にトラクター作業研修を開催しました。本研修はロータリ耕、プラウ耕による耕うん実習が中心です。

研修生は皆、熱心に取り組んでいただき、「様々なトラクターや作業機を使えて耕うん技能が向上した」、「トラクターの点検整備や作業機の安全な脱着方法についても学べてよかった」などの感想をいただきました。



県民公開講座「果樹の剪定講習会」を開催

「家庭果樹の剪定に必要な知識の習得」をテーマに、県民の皆様を対象とした県民公開講座を12月7日（水）に開催し、49名の参加がありました。講師には学識経験者の都築壽男氏をお招きし、講義と剪定の模範実技を行いました。

講義では、おいしい果実のならせ方や病虫害防除のポイント等について、模範実技では、実際に果樹の栽培ほ場に移動して、その剪定のポイントやコツを学びました。

参加者からは、残す枝の決め方など多くの質問が出るなど、真剣さや熱意が感じられました。研修後に実施したアンケートでは90%以上の方から参考になったと高い評価をいただきました。



ブドウの剪定 模範実技